2009.3
vol.85

国際交流活動ニュース

MACROCOSM

CONTENTS

2 平成20年度 青年社会活動コアリーダー育成プログラム NPOマネジメントフォーラム
5 平成20年度 青年社会活動コアリーダー育成プログラム（課題別視察）
8 第3回「国際交流リーダー養成セミナー」
10 タイ王国・スタディツアー 2009
12 平成20年度内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会
13 第35回「東南アジア青年の船」事業報告会
14 お知らせ

（財）青少年国際交流推進センター

マクロコズム

NPOマネジメントフォーラム2009
ーNPOにおける人材育成のあり方ー

平成21年2月5日（木）～8日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、内閣府・財団法人青少年国際交流推進センター主催による「NPOマネジメントフォーラム」（第7回NPO運営研究会議）が開催されました。高齢者・障害者・青少年関連の３つの分野の非営利セクターで活躍する日本と諸外国の青年が一堂に会して各国のNPO事情や活動事例に基づく有益な情報を共有し、実践的な意見交換を通じてNPO運営に関する能力の向上を図り、それぞれの分野において社会活動を支え、その中心的な担い手となる青年リーダーを育成することを目的として実施されました。

【今年度のねらい】

今年度の「NPOマネジメントフォーラム」は、日本とドイツ、ニュージーランド、英国の高齢者・障害者・青少年分野の専門家・活動実践者による合宿型のディスカッション・プログラムの中で、非営利セクターにおいて青年層がどのようにリーダーシップを取っていけるかについて議論しました。

総合テーマは、多くの非営利団体で重要かつ急務の課題となっている「人材育成」と定めました。非営利活動の財産である「人材」をどのように育てていくか、各国ではどのような研修が実施されているかについて情報を共有するとともに、3つのトピックに分かれて効果的な人材育成のあり方について協議しました。そして、参加者が具体的に活用可能な情報を持ち帰ることを目指しました。

【ディスカッションの総合テーマ】 NPO における人材育成のあり方

【ディスカッション・トピック】

本フォーラムでは、参加者は3つのディスカッション・トピックのいずれかに属し、ディスカッションを行いました。

1. 組織運営マネージャー育成への取り組み
   非営利団体において、団体の活動方針や組織のあり方、組織運営について考える立場（マネージャー）には何が求められるのか、そして次世代のマネージャーを育成するためには、どのような取り組みがなされるべきかについて、話し合いました。
2. 事業運営マネージャー育成への取り組み
   職業人として事業の企画・運営責任者の立場となるためにどのようなスキルが必要かを学ぶとともに、そのスキルを高め応用していくための方策について情報交換を行い、どのような研修が効果的かを話し合いました。
3. ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組み
   ボランティアの立場で、他のボランティアメンバーをまとめ、現場を率いるにはどのようなスキルが求められるかを認識するとともに、そのような人材を育成していくためにはどのような取り組みが効果的かについて話し合いました。

ニュージーランド参加者によるマオリ族のパフォーマンス（交流会）

【日程】

日付	午前	午後	夜間
2月5日（木）	課題別視察（外国参加者）		全体オリエンテーション
		日本参加者研修	
2月6日（金）	開会式、各国プレゼンテーション、トピック別ディスカッションなど		交流会
2月7日（土）	トピック別ディスカッション		提言文の作成 ティー・ラウンジ
2月8日（日）	成果発表会	歓送昼食会、評価会、修了式	

参加者有志による茶道体験コーナー（交流会）

第7回「NPOマネジメントフォーラム」提言

現代の複雑化している社会においては、様々な問題が起こり、今までの枠組みでは解決できないような課題が出ています。

そうした状況の中で、NPOの果たす役割に大きな期待が寄せられています。政府や地方行政と連携して施策をゆきわたらせるとともに、企業との連携をはかり社会に活力を与える活動への取り組みや、きめ細やかな対応を可能にすることができるのがNPOの良さです。

こうした活動をより推進するためには、多くの有能な人材が必要であり、その育成が急務です。

提言文を読み上げる参加者代表（成果発表会）

今回の第7回「NPOマネジメントフォーラム」で、私たちは、人材育成について次の3点に着目して話し合いました。

1. 組織運営マネージャー育成への取り組み

私たちは、組織運営マネージャーには、明確なビジョンを持ち、それを達成するために、構成員のモチベーション、価値観及び努力を束ねていく能力が必要と考えました。

そして、そのような組織運営マネージャーを育成するために次のような取組を考えました。

- NPO、連携組織、政府から学んだ適切な評価モデルを活用し資質向上を図る。
- 本来もっている能力を発揮できるための環境を整える。
- ソフトスキル、特にコミュニケーション能力を高める。
- 経験年数に応じた組織運営マネージャー総合研修を行う。

これらのことは、自己の属するNPOだけでは実現しにくいこともあります。そのため、行政による今回のような「NPOマネジメントフォーラム」や、企業によって提供される様々な情報をうまく活用し、関係団体等との連携を図りながら、社会に貢献できるNPOを運営する組織マネージャーを育成していきたいです。

そして、組織運営マネージャーとして今を見つめることと、次世代のマネージャーを育てていくことに誇りを持って取り組んでいきたいです。

2. 事業運営マネージャー育成への取り組み

事業運営マネージャーは遂行される事業の質を左右し、事業成功のための重要な役割を担う存在です。

「NPOマネジメントフォーラム」での国を超えた共同作業の中で、私たちは事業の成功に不可欠なスキルを議論し、特に優先すべき事項を特定しました。

- 明確な事業目標の設定
- 内部及び外部の専門性を持った人材の活用
- 効果的なコミュニケーションの維持
- 有益なネットワークの構築
- 確実な資金調達
- 過去の事例を活かした事業運営の改善

事業運営マネージャーが効果的に活動を実施するためには、指導・育成、ワークシャドーイングの実施など職務を通じての研修（OJT）と、セミナーや研修への参加、オンライン・トレーニング、外部講師の招へいなど職務を離れての研修（Off-JT）とを組み合わせることによって、これらのスキルを向上させる機会が必要です。

したがって、NPOセクターが政府・企業との協力の下に研修・能力開発のシステムを強化することが重要です。

3. ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組み

「NPOマネジメントフォーラム」を通じて、私たちは、効果的なボランティア・リーダーになるためには、リーダーシップ、マネジメント、コミュニケーション能力が求められるという認識を共有しました。同様に、他のボランティアを、支援し、育成し、彼らの士気を高める能力が必要不可欠です。

上記の資質を高めるために、まず、個々のボランティア・リーダーのトレーニングと育成のニーズを把握する必要があります。そして、個々のニーズにあった柔軟な取り組みが求められます。その事例としては、メンタリング、トレーニング、ネットワーク構築可能な場への参加などを含みます。育成の具体的な方法としては、振り返りの記録や、個々の強み・技能・性格を認識すること、などが挙げられます。

このような取り組みが効果的に機能するためには、モニタリングや評価を行う必要があります。以上のことが、ボランティア・リーダーを成功へと導くことになります。そして、ボランティア・リーダーの継続のためには、彼ら自身が価値ある存在と感じてもらえるように、活躍を認識し、感謝の意を示すことが重要です。

今後私たちは、この提言をもとにして、自分が所属する団体において、政府や地方行政そして企業と連携して、より力のある人材の育成に取り組み、社会に貢献できる組織として発展することを目指します。また、今回のプログラムで得た人的ネットワークを継続させ、事業の成果をより充実させるよう努力します。

第7回「NPOマネジメントフォーラム」参加者一同

トピック1　組織運営マネージャー育成への取り組み

最初に、「組織運営マネージャー」のイメージとその役割を共有しました。そこから、現状を確認することで、組織運営マネージャーが担うべき役割や、あるべきと考える姿とのギャップを洗い出し、そのギャップを埋めるために、どんな人を育てることが必要か、その育成にはどんな取り組みが必要かについて話し合いました。

ディスカッションでは、組織運営マネージャーには多くの役割がある中で、特にソフトスキルが不可欠であり、ハードスキルは骨格、ソフトスキルは血肉であると例えました。具体的には、1)スタッフが積極的に業務に携わるために、傾聴してニーズを把握すること、2)同じ目的を掲げる人との関係作りの中で信頼と敬意を示すこと、3)チームの中ですべての人が最善を尽くす平等な機会が与えられるように、スタッフ配置を配慮すること、4)わかりやすい言葉を使用して明確に伝えること、という4つのソフトスキルについて議論を深めました。

理想の組織運営マネージャーについて発表する参加者(トピック1)

また、組織運営マネージャーの育成にあたって必要な考え方として、ひとりの人間の力には限界があるため、組織運営に関する業務を把握した上で、役割分担をし適材適所に人材を配置すること、ワーク･ライフ･バランスのとれた環境を整え、自分自身が充電する時間も確保できるように調整することなどを基本として、提言文に掲げた4つの取り組みをまとめました。

トピック2　事業運営マネージャー育成への取り組み

最初に、事業運営マネージャーに求められる能力について話し合い、各国や分野での共通点や違いについてシェアリングを行った後、必要とされている能力の習得、向上のための効果的な研修について具体的に議論を進めました。

2つの小グループに分かれてディスカッションが行われ、事業運営マネージャーには様々なスキルが必要とされる中で、特に小グループ1では「適材適所の考え方」が重要とし、雇用に関する法律知識、カウンセリング、心理学や職務評価を習得できるような研修が必要と認識しました。

小グループ2では「コミュニケーション能力」が不可欠とされ、果たしてコミュニケーション能力は「資質」なのか「スキル」なのか議論した上で、どのような研修を行えばそれらを伸ばすことができるのか具体的な研修内容についてまとめました。

グループに分かれ、事業運営マネージャーに必要なスキルについて議論する(トピック2)

トピック3　ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組み

はじめに、「ボランティアをまとめていくリーダーとは何か」について共通の認識を持った上で、良いリーダーはどんな資質やスキルを備えているかについて話し合いました。各参加者で準備してきたプレゼンテーションを小グループに分かれて行い、ボランティアをまとめていくリーダーを育成するための実践例や取り組み、ボランティアの活動領域についても共有しました。様々な取り組みについて知ることができ、また文化的な違いについても学ぶことができました。

ディスカッションの中で、ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組みとして、主な6つの柱を挙げました。

1. ボランティアの資質を見極め、スキル向上の場所を適切にアドバイスできる力を育成
2. ボランティア・リーダー同士のネットワーク作りの場所設定
3. ボランティア・リーダーの活動の評価
4. ボランティアに対し、メンタリングや相談を行う能力
5. ボランティアのモニタリング
6. ボランティア・リーダーの活動内容の認識と、それに対する感謝

2日目に入り、より熱のこもった議論が行われた(トピック3)

課題別視察（2月5日）

「青年社会活動コアリーダー育成交流プログラム」の一部として、「NPOマネジメントフォーラム」での3トピック毎に課題別視察を行いました。外国参加者が日本の現状を把握することをねらって「NPOマネジメントフォーラム」の前に実施されました。

高齢者分野、障害者分野、青少年分野のNPOを訪問し、トピックに関連したテーマ別の切り口で、組織運営マネージャー、事業運営マネージャー、ボランティアをまとめていくリーダーのそれぞれの育成について関係者との意見交換を行い、日本のNPOの現状について理解を深めました。

トピック 1　組織運営マネージャー育成への取り組み

訪問先

訪問先1	社会福祉法人杜の会　SELP・杜	・組織運営について説明 ・活動見学・体験 ・昼食（職員同席） ・理事長及び組織マネージャーレベルのスタッフとの意見交換
訪問先2	特定非営利活動法人　ETIC.	・活動概要 ・職員との意見交換

訪問先１：社会福祉法人杜の会　SELP・杜

ノーマライゼーションと共生という思想のもと、10年以上にわたって障碍（がい）者や高齢者が社会的に排除されないコミュニティ作りを実践してきた杜の会。理事長から理念、団体創設から発展までの過程や、人材育成に対する考えについて説明を受け、意見交換をしました。また、授産施設「SELP・杜」の見学を通し、障碍者が製造するパンやコーヒー、豆腐といった「商品」が福祉と地域を結びつける架け橋として重要な役割を担っていることを知る機会となりました。

SELP・杜で朝礼に参加し、挨拶する外国参加者

SELP・杜で師理事長（写真最右）より説明を受ける

ETIC.で山内幸治事業統括ディレクター（写真最左）から団体概要の説明を受ける

訪問先２：特定非営利活動法人　ETIC.

ETIC.はベンチャー企業として、これまでに100人以上の起業家・経営者を輩出し、青年が青年の活躍の場を提供するというユニークな組織です。社会の課題を自ら発見し未来を開拓するリーダーの育成と支援を目指す団体について説明を受けると同時に、後半の意見交換会ではETIC.が抱える問題を共有し、各国参加者が様々なヒントを提供する場となりました。

ETIC.にて意見交換会

トピック２　事業運営マネージャー育成への取り組み

訪問先

訪問先1	社会福祉法人慈生会 特別養護老人ホーム ベタニアホーム	・団体及び事業概要、人材育成への取り組みについて説明 ・施設見学 ・事業運営マネージャー育成の取り組みについて、スタッフとの意見交換
訪問先2	社会福祉法人東京コロニー	・社会福祉法人東京コロニー職員と昼食 ・団体・事業概要説明 ・施設見学 ・職能開発室の事業説明 ・職員との意見交換

訪問先１：社会福祉法人慈生会　特別養護老人ホーム ベタニアホーム

理念、ビジョン、姿勢を大切にしている慈生会の特別養護老人ホーム「ベタニアホーム」を訪問し、組織の理念の展開としてどのように事業運営やスタッフの人材育成が行われているかについて視察及び意見交換を行いました。毎日の朝礼で「慈生会の誓い」を全職員で唱和するなど、理念の共有がなされていることは、どの職員の方からも伝わってきました。組織として階層別に求められる職員像を示したうえで、技術よりも姿勢に力点をおいた人材育成に取り組まれていました。高い意欲をもった職員の方々と、組織がそれをサポートしている点が、大変参考になりました。

ベタニアホームで職員の方々と
人材育成について意見交換する

ベタニアホームでの記念撮影

東京コロニーで勝又和夫理事長から説明を受ける

訪問先２：社会福祉法人東京コロニー

障害者の就労支援で先駆的取り組みをしてきた東京コロニーは、特徴として情報技術を活用した事業の展開をしており、在宅就労も含め個々の障害者の状況に応じた仕事の提供やマッチングを行っています。訪問当日は、併設のカフェで用意された昼食をいただきながら、事業運営担当職員とディスカッションを行いました。外国参加者からは、日本の障害者雇用の現状など、大きな視点での質問も多く投げかけられました。

東京コロニーにて職能開発室の事業説明を受ける

トピック 3　ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組み

訪問先

訪問先1	特定非営利活動法人自立の家	・活動概要・ボランティアについての説明 ・活動見学・体験 ・事務局スタッフ及びボランティアとの意見交換
訪問先2	財団法人修養団本部	・財団法人修養団職員と昼食 ・活動概要・ボランティアについての説明 ・職員及びボランティア・リーダーとの意見交換

訪問先１： 特定非営利活動法人自立の家

「自立の家」は、ボランティアを積極的に受け入れ、有償ボランティアが居宅介護事業・介助派遣事業・グループホーム事業・就労支援事業に関わる体制を整えています。「自立の家」代表理事の説明は、日本での地域活動の現状、障害者を取り巻く環境など多岐にわたりました。外国参加者は「自立の家」での作業にも参加し、活動継続についてなどの質問が多く挙がりました。

自立の家で利用者と切手仕分け作業を行う外国参加者

自立の家で小佐野彰代表理事（最後列左から2人目）から活動内容の説明を受ける

修養団で山崎一紀事務局長より修養団の活動と理念について説明を受ける

訪問先２： 財団法人修養団本部

「修養団」では、ボランティアを育成し、そのボランティアが青少年活動や国際交流活動で中心的役割を果たしています。「修養団」本部視察では、ボランティアの養成について、またその過程におけるリーダー育成について意見交換を行いました。ボランティア・リーダーによる自身の経験も踏まえた説明や、社会人になった後も継続的に活動するボランティアが多い背景についてなど、日本のボランティアの現状を交えて様々な視点で質疑応答が相次ぎました。また、ボランティア・リーダーも、リーダーとしても学ぶことが多いことから、事業参加の際には参加費を払うなど、外国参加者が様々なヒントを得る場になりました。

修養団にて、職員、ボランティアと記念撮影

第3回「国際交流リーダー養成セミナー」

平成21年3月14日（土）～15日（日）、（財）青少年国際交流推進センター主催の第３回「国際交流リーダー養成セミナー」を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。全国各地から、国際交流協会や非営利団体の職員、学校教職員など13名の参加者を得て、基調講演、全体会、分科会などを実施しました。

今回は、今の社会においてニーズの高い「地域における国際化への対応」をテーマにしました。分科会では、従来の交流を主としたプログラム企画を取り扱うと同時に、在住外国人への支援プログラムを企画する分科会も設け、職業として支援に携わっている方々を中心にご参加いただきました。

基調講演「日本における異文化理解の必要性」では、異文化コミュニケーションが学問分野として発達してきた経緯を知るとともに、文化とは何か、コミュニケーションとは何かを、改めて体系的に学ぶ機会となりました。鏡により正反対になった手元のみを見ながら正確に線を引くというワークでは、自分の固定概念から脱することがいかに難しいかを体験しました。

また、全体会での「プログラム企画・立案」では、プログラムを企画する上でのポイントや、会議の開催方法、効果的な広報などについて確認していきました。国際交流だけでなく、あらゆる場面で応用できる考え方を習得することができました。実例なども多数紹介いただき、現場で使える手法や、逆に留意しなければならない点についても学ぶことができました。

その後2つの分科会に分かれましたが、各分科会のねらいは次のとおりです。

桝本智子准教授による基調講演

日程

3月14日（土）	10:00-10:30	開講式・オリエンテーション
	10:30-12:30	＜基調講演＞「日本における異文化理解の必要性」 神田外語大学国際コミュニケーション学科 桝本 智子准教授
	14:00-16:30	＜全体会＞「プログラム企画・立案」 （財）大阪府青少年活動財団　赤木　功主幹
	16:30-17:00	分科会顔合わせ
	19:15-21:30	＜分科会＞ ・「地域の在住外国人への支援プログラムの企画」 （財）青少年国際交流推進センター　大橋　玲子事務局長 ・「地域の在住外国人・留学生との交流プログラムの企画」 （財）大阪府青少年活動財団　赤木　功主幹
3月15日（日）	9:00-9:45	フォローアップ
	10:00-12:00	＜分科会＞
	13:20-14:00	＜分科会発表＞
	14:00-14:30	アンケート記入・振り返り
	14:30-15:00	閉講式（修了証授与）

■分科会A「地域の在住外国人への支援プログラムの企画」

（財）青少年国際交流推進センター 事務局長　大橋　玲子

3年目の開催となった本セミナーでは、初めて在住外国人の方々への支援という課題を取り上げました。参加者の立場は、ほとんどが仕事として関わっている方ということもあり、楽しい雰囲気ながらも真剣に取り組む姿勢が印象的でした。参加者自身が発案した一つの企画を作り上げていく過程で、必要な考え方やノウハウを提供するとともに、参加者自らも考えるという取組で進めました。

最初に、国の最近の施策と平成21年度予算の内容を説明しましたが、これは、この分野が安定した長期的取組を求められるものなので、行政との連携と財政の安定の必要性を実感してもらうためでした。自分たちからは遠い存在と思っていた国の取組が、実は活動の方針や財政の基盤となるということが参加者の意識改革に繋がったと感じています。

次に、プログラムの作成では、短時間での組立てを考慮してガイドラインを示しました。最も重視したのは、事業実施の目的とその企画から成果としたいねらいの設定でした。ともすれば、実施ありきで、すぐに現場の組立てに意識が向きがちですが、この部分を関係者が共有しておくことは最も重要です。話合いの進むうちに、広がっていく企画内容をねらいからずれないようにまとめていくことは容易ではありませんでしたが、話合いが煮詰まってしまった参加者の思考が、ある一言で開く瞬間は、講師冥利に尽きます。こうして、でき上がった企画は、対象である在住外国人の方々が、自立し、地域に溶け込んでいくことを充分に可能にするサポートプログラムでした。この企画の大切な視点は、対象者の方々が、最終的にはサポートを受ける立場から、サポートする側にまわれるようになるまでの流れを組立てるという発想を持つことです。

今後、参加者の皆さんが作り上げた企画が実践されるのを楽しみにしています。

在住外国人支援プログラムの企画にあたり、講師よりアドバイスを受ける（分科会A）

■分科会B「地域の在住外国人・留学生との交流プログラムの企画」

(財)大阪府青少年活動財団 主幹　赤木　功

様々な経歴をもつ8名の参加者で始まった分科会は、実行委員会でそれぞれ異なった立場のメンバーが集まった時にいかに企画立案し、企画内容を共有できるかを実践しながら、行いました。一つのケースを想定し、企画を創り上げていく手法をとり、より実践的に考えることとしました。

一日目においては、ねらいの設定、実施後の効果を話し合う時間を多く設けました。プログラムを立案する際、具体的な内容や訪問先のことが、最初に話し合われることが多くあります。また、内容から考えた「ねらい」を後付けしていくことが多く見られます。今回も一部で同様のことが見られましたので、あえて「ねらい・効果」を考えることに集中しました。これは、何のために事業を実施するのかという根本的なことですが、立案が進むにつれて忘れがちになることがよくあり、できあがった企画が「ねらい」から異なった方向にいくことを防ぐことができます。

二日目は、一日目に考え、共有した「ねらい」をもとに実際に事業を創り上げていきました。そして、参加者がそれぞれの活動場所において実践しやすい内容を創り上げていきました。経験豊かな参加者の集まりだけあり、手際よく進んでいきました。

在住外国人との交流プログラム企画も終盤を迎え、一気に集中する参加者（分科会B）

最後には、事業企画のプレゼンテーションを行い、創り上げた事業を分かりやすく伝えることを実践しました。人に伝えることは、事業企画の見直しや事業を創り上げたメンバーが再度内容を共有することにも効果があります。

さらに今回は、目的（事業概念（理念））、ねらい（事業効果・具体的に設定）について、何度となくお話しさせていただき、そして、効率よく打合せを実施していく手法も実践しながら分科会を進行しました。今回の参加者が、今後もより実りある事業を創り上げ、実施されていくことを願っています。

● セミナーに参加して

長崎県IYEO　山田　公美

地域の国際交流事業を活性化していく上でヒントになることを得たいと思い参加しました。

分科会Bでは、最初のアイスブレーキングでグループ内の雰囲気はすぐに和やかになり、仲間意識が芽生えました。企画書作りでは、企画経験者が多く、スムーズに進んでいるように感じられました。しかし、講師の助言をもとに、目的やねらいとプログラム内容を検証していくと関連があいまいな部分が見つかり、ねらいや目的を練り直したりすることで、企画書作りのノウハウや役割を体験することができました。「目的・ねらい・具体的効果」を明確にした上で、プログラムをデザインしていくことの重要性を改めて学ぶことができました。講師の方々の助言や参加者同士の真剣な議論は、今後の地域活動の活性化のためにたいへん有意義なものだったと思います。

貴重な機会を与えてくださった講師の方々、スタッフの方々そして参加者の皆様に改めて感謝いたします。

● セミナーに参加して

長岡市国際交流センター　十見　智子

話合いが暗礁に乗り上げ、発表までこぎつけるのか不安を感じた時もありましたが、他の参加者の方々の熱い思いに励まされながら、二日間を乗り切ることができたように思います。話し合いが行き詰まった時には、講師やスタッフの方が、話合いの当事者には見えにくい問題を発見してヒントを示してくださったり、話合いを進めるための新たな切り口を提示してくださったりしました。これらの助言により、行き詰まった状況を打開することができ、グループの意見がまとまっていったように思います。今回の話合いを通して学んだことは、今後自分が企画立案、さらには話合いをファシリテートしていく際に、ぜひいかしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を提供してくださった講師の方々、主催者・参加者の皆様に改めて感謝いたします。

思いつくままにアイデアを書き出していく（全体会）

修了証を受領し、笑顔で記念撮影

タイ王国・スタディツアー2009

(財)青少年国際交流推進センターでは今年3月、昨年に引き続き、自主事業として「タイ王国・スタディツアー2009」を実施しました。全国から集まった13名(参加者11名及び内閣府青年国際交流事業事後活動組織派遣者2名)は、タイ・ラヨーン県で行われた青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project (FHCP) 2009(希望あふれる子どもたちのためのプロジェクト)」にボランティアとして参加し、プロジェクト実行委員と協働しました。

FHCP2009に先立ち、カーンチャナブリー県に位置する児童養護施設「子どもの村学園ムーバーンデック」と「タンマヌラック」を事前訪問し、子どもたちと共に生活・活動することを通じて、交流を深めました。

また当事業は、日本とメコン地域諸国(カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス)間の更なる交流の拡大を目指した「日メコン交流年2009」の認定事業となりました。

月日	活動内容	場所
3月17日(火)	バンコク集合	バンコク
3月18日(水)	カーンチャナブリーへ移動 クウェー川鉄橋(戦場にかける橋)視察	カーンチャナブリー
	カーンチャナブリーでの活動	
	子どもの村学園ムーバーンデックにて子どもたちと交流 子どもの村学園ムーバーンデック滞在(2泊)	
3月19日(木)	カーンチャナブリーでの活動	
	植樹(日タイ友情の植樹) タンマヌラック訪問(施設見学、子どもたちと交流) 子どもの村学園ムーバーンデックにて子どもたちとの交流会・文化紹介	
3月20日(金)	ラヨーンへ移動 FHCP2009タイボランティアスタッフと顔合わせ FHCP2009事前準備	ラヨーン
3月21日(土)	FHCP2009	
	開会式、海水浴 参加各団体のパフォーマンス披露	
3月22日(日)	FHCP2009	
	軍用船乗船体験、海岸清掃活動 ブース別ワークショップ活動(「焼きそば作り」など) アドベンチャーゲーム、海水浴 参加各団体のパフォーマンス披露	
3月23日(月)	FHCP2009	
	閉会式	
	バンコクへ移動 FHCPボランティアスタッフとの夕食会	バンコク
3月24日(火)	バンコクにて解散	

「For Hopeful Children Project (FHCP) 2009(希望あふれる子どもたちのためのプロジェクト)」概要

FHCPは、第2回「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年ウィスィット・デッカムトーン氏が代表を務めるボランティアグループ「Fund for Friends」が行う、「希望あふれる子どもたち(Hopeful Children)」のためのプロジェクトで、今年で19年目を迎えます。

このプロジェクトでは、社会的に恵まれない状況にある、孤児・ストリートチルドレン・被虐待児など、施設で保護・治療を受けている子どもたち、また、視覚・聴覚障がい、肢体不自由などの身体障がい、精神・知的障がいをもつ子どもたちを「希望あふれる子どもたち」と呼んでいます。このプロジェクトは、物質・教育的な制限のため、競争社会でのチャンスが少ないとしても、子どもたちがプロジェクト参加を通し、自分たちを思う人の存在に気づき、更には自信をもって育ち、競争社会でしっかり成長するきっかけとなることをねらいとしています。

【FHCP 2009参加団体】

(1) 子どもの村学園ムーバーンデック

カーンチャナブリー県にある児童養護施設「子どもの村学園ムーバーンデック」は、1979年に設立されたNPOで、両親のいない又は貧困・家庭崩壊などの事情で育児のできない家庭出身の子どもたちを預かっている施設です。3歳以上の子どもたちが共同生活をする場であり、タイ教育省から認可を受けた彼らの学校でもあります。子どもたちが既成の概念にとらわれることなく、自分たちに最も適切なやり方(オルタナティブ教育)を受けることができる小さなコミュニティーです。

(2) タンマヌラック

カーンチャナブリー県にあるタンマヌラックは、仏教の精神に基づき尼僧により設立され、さまざまな理由で両親のいない又は育児のできない家庭出身の子どもたちを預かっています。子どもたちのうち、約3割は両親のいない子どもたち、約3割は山岳地域のカレン族の子どもたち、約4割はタイ・ミャンマー国境地域で生まれた無国籍のモン族の子どもたちです。また、子どもたち全体のうち7割強が女の子です。

(3) Christian Care Foundation for Children with Disabilities in Thailand (CCD)

バンコクの北、ノンタブリー県にあるCCDは、経済的理由などにより育児のできない家庭出身の障がいのある子どもたちをサポートしています。CCDでは、今どのような理由で家族と生活できないとしても、子どもは産みの親を知るべきと考えており、子どもたちが産みの親と再会できることを目標の一つにおいています。

子どもの村学園ムーバーンデックの川辺で全参加者

「フレンドシップ」をテーマに
日タイ友情の植樹

タンマヌラックで子どもたちと折り紙をする

タンマヌラックで子どもとボール遊び

FHCPでパフォーマンスを披露し、人に楽しんでもらうことの喜びを知る子どもたち

FHCPで、ソーラン節を子どもたちと一緒に踊る

(4) Foundation of Rehabilitation and Development of Children and Family (FORDEC)

バンコク郊外にあるFORDEC（フォルデック）は、「困難を抱えたすべての人々に対する愛と心配り」をモットーに活動しています。その対象には、子どもや若者、家族、高齢者、障がい者、ホームレス、放浪者、麻薬依存者、虐待被害者など、困難を抱えたすべての人が含まれます。FHCP 2009には主に、スラム街など低所得層家庭の子どもたちが参加しました。

(5) 山岳少数民族の子どもたち

タイ北部の山岳地域にはたくさんの山岳少数民族が暮らしており、今でも独特の文化や伝統、生活習慣が残っています。FHCP 2009には、ピッサヌローク県からモン族の子どもたち、チエンラーイ県からラフ族の子どもたち、メーホンソーン県からリス族の子どもたちが参加しました。山岳地域出身の子どもたちにとって、FHCPへの参加は白い砂浜や青い海を見ることのできる大変貴重な機会です。

(6) 津波被災地の子どもたち

タイ南部のパンガー県からは、2004年12月26日のスマトラ島沖地震の際に発生した津波の被災地の子どもたちが参加しました。津波により、両親や家族を失った子どもたちも多いですが、FHCPへ参加することにより新しい友人に出会い、また子どもたちの海に対する恐怖感を克服させる機会にもなっています。

(7) タイ南部国境のイスラーム教の子どもたち

パッターニー県、ヤラー県、ナラーティワート県からの子どもたちはイスラーム教信者で、同地域で起きた暴動により両親や家族を失いました。彼らのほとんどは地元を離れた経験がなく、FHCPへ参加することにより新しい友人に出会い、様々な活動を体験できる貴重な機会となっています。

(8) Rayong Home for Children

地元ラヨーン県から、両親のいない又は育児のできない家庭出身の子どもたちが参加しました。

FHCPで、フランスから来たバンド音楽を楽しむ子どもたち

FHCPで、地元の方と一緒に日本の焼きそば作り

FHCPで、日本人参加者による、タイの伝統文化フルーツカービング披露

FHCP最終日、子どもたちとの別れを惜しむ

タイ王国・スタディツアー2009に参加して

岡田　健一

子どもたちに自信を。「希望あふれる子どもたち」と名付けられたこのプログラムには、その理念に賛同してたくさんの人が集まりました。地元の青年たちだけでなく、地域住民、世界各国からのボランティア、さらには施設をも提供してくれている海軍の全面協力があって成り立っていました。軍服を着ながら、朝から晩まで、時には海の中でさえ、どんな時でも子どもたちの面倒を見つつ、嫌な顔一つせずに掃除や皿洗いまで行う彼らの献身的な姿には本当に感銘を受けました。私たち日本人参加者もその輪の中に入って、共にキャンプを作り上げることができて本当に光栄です。

このように国際交流は文化交流から、共に社会の問題に取り組む共通の意識を育てるものに変わっていくでしょう。こうした経験は国際的な課題解決のためのパートナーシップを育成する第一歩だと考えます。「こうした企画を次はぜひ自国でも行いたい」と話す外国人青年がたくさんいて、今後は世界中でこの理念が継承されていくかもしれません。

タイ語が話せない我々にとって、子どもたちに何をしてあげられるのかが共通の不安でした。しかし何も話さなくても子どもたちは手を掴んで一緒に遊んでくれます。そこにいるだけで、子どもたちを抱きしめるだけで、子どもたちが求めるもの（それは愛といえるのでしょうか）を共有できた気がします。そこには言葉もいりません。微笑みの国タイでたくさんの、とびっきりの笑顔に囲まれた一週間でした。

担当していたモン族グループのリーダーにはっぴをプレゼントする筆者（左）

平成20年度内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会

平成21年2月15日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成20年度内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会を実施しました。今年度の派遣国は、バルト三国（エストニア、ラトビア、リトアニア）、カンボジア、ドミニカ共和国、ラオス、中国、韓国で、「築こう つなげよう 世界との絆」というテーマのもと、参加青年は各国代表のスピーカーによる事業報告やブース展示等で自分たちの派遣活動の成果を報告しました。一般来場者と今年度参加青年をあわせて約280名が来場しました。

当日プログラム

時間	内容
13:15～13:30	開会式
13:30～14:45	参加青年による青年国際交流事業報告
14:55～15:25	平成21年度内閣府青年国際交流事業説明及び募集
15:25～15:35	ブースアピール(各ブースの見どころを紹介)
15:35～16:45	訪問国等ブース展示(派遣団ブース、内閣府ブース、OB・OGブース、写真ブース)
16:45～17:00	閉会式

報告会のために全国から集まった参加青年

報告会を終えて

報告会実行委員長　藤田　茜

「築こう　つなげよう　世界との絆」というテーマを掲げ、各団より2～3名ずつ選出された23人の実行委員と共に作り始めた「航空機による海外派遣」事業報告会。昨年10月に行われた初回の会議では、同じ事業に参加したとはいえ、派遣国が異なるため皆ほぼ初めて言葉をかわすといった状態。世界との絆をつなげる前に、まずは各団同士の絆を築くことが最優先となった。

普段は学生から社会人と、様々な立場で活動している実行委員は、各係に分かれて企画や準備に当たるとともに、職業も居住地もそれぞれ異なる自らの団の団員に、積極的にメールや電話で連絡しあったが、私は報告会前日まで、本当に皆が一緒に報告会を作り上げてくれるのか心配で仕方がなかった。しかし、派遣から4か月半も経っているにもかかわらず、参加青年109名のほとんどが前日の準備から集まり、全力で準備に取り組んだ。実際に皆が顔を合わせたのは、前日・当日を含めたったの2日間だったが、全6団が報告会を通して一つになれたのを見た時、皆が一つになることで更に大きな力を発揮することを実感した。

ここまでやり遂げるにあたり、協力してくださった多くの方々に感謝するとともに、この報告会で築いた一つひとつの絆を大切にしていきたい。

各派遣団から1名ずつのスピーカーと司会者2名の8名で、派遣の成果等を報告した

閉会式では現地の青年との交流の際に覚えた歌や踊りを披露した

一般来場者に写真を見せながら説明する参加青年

写真ブースでは「笑顔」「風景」「びっくりしたこと」の3つのテーマでフォトコンテストを行った

アンケート結果(抜粋)

- 活動の内容をよく理解することができました。また団員の方々の国際交流に対する考えなどを聞くことができてよかったです。
- 団員が一致団結していることがよく分かりました。
- メンバーが伝えたいことをたくさん持って帰ってきたことがよく分かりました。
- 各ブースの皆さんとお話しすることができて、本当によかったです。この国際交流事業に参加しなければわからない知識・経験・情報を、皆さんから聞くことができてよかったと思います。
- 国際交流事業が貢献しようとしている方向性が理解できました。
- 参加者の主体性に基づいた会で、事業の将来性を強く感じました。

第35回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成21年3月1日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成20年度第35回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者と今年度参加青年をあわせて約210名が来場し、参加青年はパネルディスカッションやブース展示などで、事業だけでなく事後活動についても報告しました。

スケジュール

13:00	開会
13:10	第35回「東南アジア青年の船」事業報告
13:30	ASEAN☆Quiz
13:45	パネルディスカッション
14:50	内閣府による平成21年度青年国際交流事業募集概要説明
15:10	閉会挨拶
15:20	展示

第35回「東南アジア青年の船」事業報告会副実行委員長
兼友　昭典

閉会の挨拶をする筆者

「東南アジア青年の船」事業で、300人以上のすばらしい仲間たちと出会い、かけがえのない時間を過ごすことができました。下船後、私たちは事業で経験したこと、感じたことを一人でも多くの方に伝え、より多くの方にこの事業を知っていただきたいと思い、「広がる海　つながる仲間　深まるASEANとの絆」というテーマの下、報告会の準備を始めました。

準備に取り掛かった当初は、なぜ報告会を開催するのか？報告会で何を伝えたいのか？どのように表現すればうまく伝わるのか？など、何度も私たちの意見はぶつかり合い、困惑することさえもありました。しかし、報告会を準備していくことは、事業のプログラム一つひとつの意義や学んだことを整理することに繋がり、さらに考えることで伝えたい内容がきちんと具体化しているのを実感しました。

来場者に展示物の説明をする参加青年

報告会では、事業の概略や活動を伝え、パネルディスカッションで私たちの経験や感じたことを話し、展示ブースで説明などを行いました。どこまで伝えることができるのか分かりませんでしたが、報告会終了後、来場者の方から参加してみたいという声や熱意を感じたという感想を聞き、達成感を覚えました。

この報告会は、私たちのこれからの活動のきっかけにもなりました。今後は、第36回事業日本参加青年や後輩達へのサポートをし、より多くの方にこの事業を知っていただけるように活動していき、この事業で築いたASEAN各国の友人たちとの絆をより深め、21世紀の日本とASEAN各国の交流にいかしていきます。この事業を通して、たくさんの人たちがこの経験をいかし、より大きな視野を持ってグローバルな社会で活躍することを願っています。

最後になりましたが、第35回「東南アジア青年の船」事業報告会を支えてくださった内閣府、(財)青少年国際交流推進センター、また関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

参加青年によるパネルディスカッション

日本・ASEANユースリーダーズサミット実行委員も展示で協力

事後活動への取り組み

第35回「東南アジア青年の船」事業参加青年
白柳　まりえ

ディスカッションのボランティア・グループでは、船上ディスカッションでの成果として、各国参加青年から集めたTシャツなどを東京都立成瀬高校のボランティア部を通してマリ共和国に寄付しました。

また、同グループの日本参加青年は、平成20年10月29日の課題別視察先である「めだかすとりぃむ」を、事業終了後の1月中旬に東南アジアのおもちゃと楽器を持って訪問し、利用者と一緒に遊んだり演奏したりしました。普段、東南アジアの文化に触れる機会の少ない方に、興味を持ってもらえた良い機会でした。

事後活動を通して、船で得た東南アジアとのつながりを、これからも地域に広げていきたいと感じています。

今後は、第35回日本参加青年として、東南アジアの温かさを伝えられるような写真展を企画する予定です。

東京都立成瀬高校を訪問し、ボランティア部の生徒に、マリ共和国に寄付する衣類を手渡す筆者(後方中央)

青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議
(財)青少年国際交流推進センター推進委員会議
日本青年国際交流機構第49回全国推進会議

平成21年3月7日(土)～8日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて上記会議が開催され、日本青年国際交流機構平成21年度活動計画が以下のように定められました。詳細は次号のマクロコズムに掲載予定です。また、IYEOホームページでもご覧になれます。http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/mokuteki.htm

内閣府青年国際交流事業50周年記念

「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」

変化の激しい現代社会においては、これらの変化に対応し幅広い視野を持って新しい取り組みを考え、実行できる人材が必要とされている。このような現状を踏まえて、50年にわたる内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組む。

1. **青年層活性化の基盤づくりに取り組もう**
   現代の青年の社会活動へのニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組み、青年による社会の活性化を目指す。
2. **地域社会に貢献できる人材育成に取り組もう**
   地域における国際交流活動を積極的に行い、地域と世界の距離を狭めると共に、地域のニーズに合った貢献が果たせる人材の育成に努める。
3. **国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう**
   国内外における様々な課題に対応するため、半世紀にわたって築いたネットワークを活用して国際協力活動を推進し社会に貢献していく。

日本青年国際交流機構第25回全国大会 広島大会

平成21年12月5日(土)～6日(日)

世界遺産の厳島神社を対岸から臨むロケーション！きっと交流の原点に出会えるはず…

◆ 会場：安芸グランドホテル
〒739-0412広島県廿日市市宮島口西1-1-17
http://www.akigh.co.jp/

待ちよるけん、来てね！
実行委員会一同

★家族で参加しやすい企画、同期メンバーで参加して楽しい企画を検討中です！
★広島の文化、味、歴史を楽しんでもらえるよう準備しています！

今月の表紙

第4回グローバル・フォト・コンテスト　テーマ：「次の世代に遺したいもの」

タイトル："Enlightenment: I am the treasure"
(悟り：かけがえのない私)
撮影者：Esther Vallado (SWY20、スペイン)
撮影場所：インド

タイトル："Dolphins joining Nippon Maru"
(にっぽん丸と泳ぐイルカたち)
撮影者：Jose Sano Takahashi
(SWY 11、ペルー)
撮影場所：にっぽん丸(パプア・ニューギニア付近)

編集後記

マクロコズムがA4サイズに変更されてから、早いもので1年がたとうとしています。文字数と写真の配分にも慣れ、原稿が送られてきた段階で、このくらいの文字数なら、このくらいのスペースが必要というイメージができるようになってきました。読者の皆さんにとってさらに読みやすい紙面を作っていきたいと思います。(ふ)

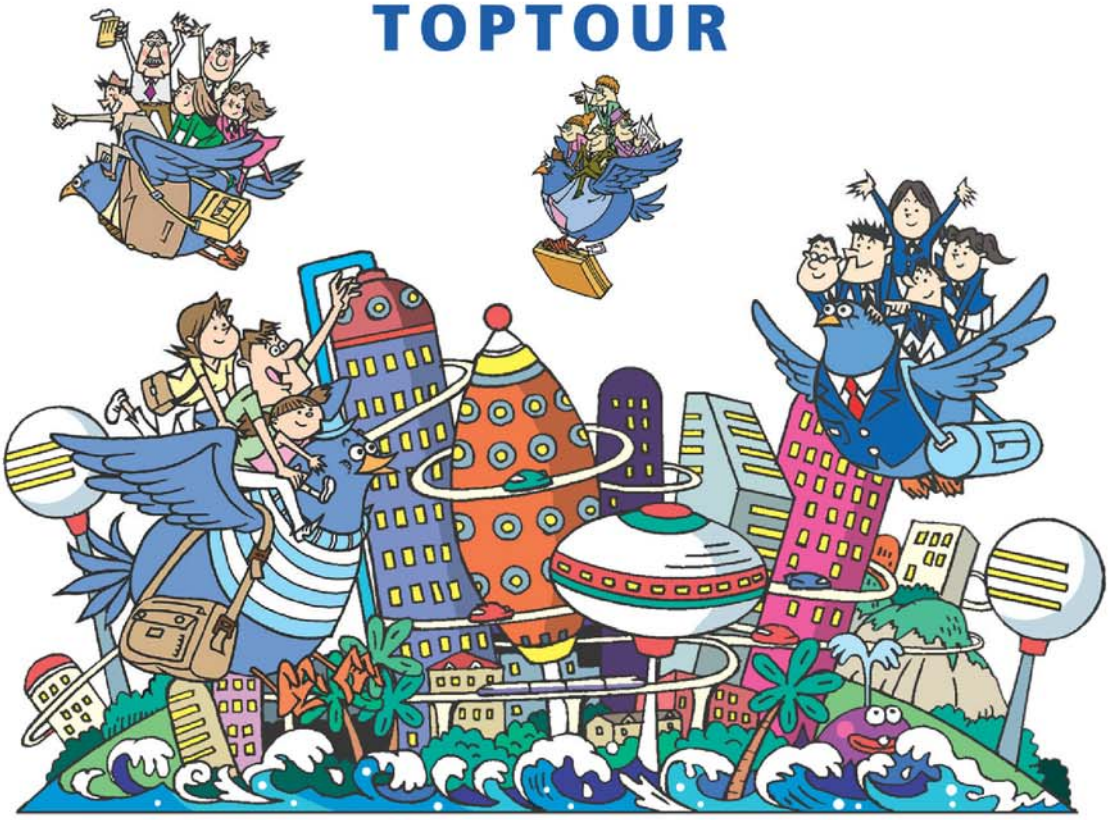
MACROCOSM 3月号 vol.85

2009年3月31日発行
編　集　マクロコズム編集委員会
発　行　(財)青少年国際交流推進センター
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767　FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: http://www.centerye.org/ (CENTERYE)
http://www.iyeo.or.jp/ (IYEO)
編集協力　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構（IYEO）
定　価　200円 本体191円
印刷所　株式会社デックス
TEL: 03-3400-8089　FAX: 03-5469-5270

The 50th Anniversary
2006年1月31日

人が行き、人が集う、それが旅。

TOPTOUR



東急観光株式会社は創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋
旅は人と自然が触れ合う地球の扉
旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル
そんな旅を創造し、提案する［旅行インテリジェンス企業］
それがトップツアー株式会社

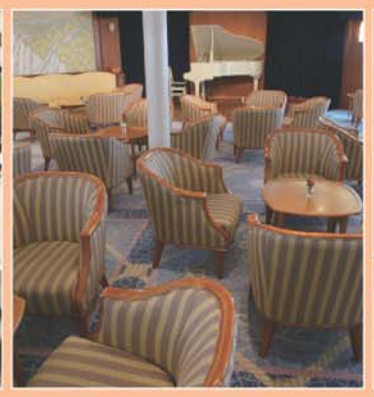
東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。
みなさまから愛される企業をめざして・・・・・・・

TOPTOUR
東急観光が社名を変えました。
トップツアー株式会社
国土交通大臣登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号 http://www.toptour.co.jp http://toptour.jp

マクロコスム　2009年3月号　通巻八五号季刊発行　定価二〇〇円　本体一九一円　編集協力：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）　日本青年国際交流機構

極上の演出で
皆様をお待ちしております

選び抜かれた
厳選食材で舌つづみ



くつろぎのラウンジで
優雅なひとときを

多彩なイベント・ゲストが
感性を刺激します

快適な船旅を、お約束します。

プラチナエンターテイメントクルーズ 名古屋
名古屋→岩国→名古屋
2009年6月21日（日）～6月24日（水）4日間

由紀さおりのコンサートをはじめ、ソムリエの田崎真也、人間国宝 野村万作による狂言の世界、作家 渡辺淳一の特別講演。上質な旅をお届けします。

■旅行代金 大人お一人様（船内食事付・消費税込）
ステートルームC　スイートルーム
175,000円～555,000円

東京ワンナイトクルーズ
東京→東京
2009年6月25日（木）～6月26日（金）2日間

夕方出港の1泊2日のクルーズです。「食」のにっぽん丸自慢のディナーをはじめ異色のピアノ・マジックともいえる「HIROSHI」がお届けするユニークなショーもお楽しみください。

■旅行代金 大人お一人様（船内食事付・消費税込）
グループ3　スイートルーム
39,000円～148,000円

oasis にっぽん丸
横浜→終日航海→横浜
2009年7月15日（水）～7月17日（金）3日間

ノンストップの2泊3日のクルーズです。毎回好評のデューク更家ウォーキングセミナーや様々なイベントでお楽しみください。

■旅行代金 大人お一人様（船内食事付・消費税込）
グループ3　スイートルーム
89,000円～328,800円

そのほかのクルーズもご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。＊グループ3はステートルームBを3名で利用した場合の代金です。

商船三井客船　〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5F　http://www.mopas.co.jp　お問合わせは、MOPAS クルーズデスクへ。　クルーズデスクフリーダイヤル 0120-791-211　MOPAS